

第3回定期レポート

人間社会科学研究科 社会創成専攻

1年 熱田知里

このレポートでは、留学3・4ヶ月目の様子を紹介したいと思います。今回は、フランスの大学の期末テストと冬のイベントについて説明します。

○学校生活

フランスの大学では、12月は期末テストの期間です。島根大学のテストと大きく異なっているため、ここで詳しく紹介したいと思います。

まず、テストの日程です。島根大学では、基本的に通常の時間割通りにテストが行われますが、こちらの大学では、授業とは全く関係のない曜日、時間にテストが実施されます。テストのスケジュールは、事前に出ているため、自分で確認する必要があります。テストが行われる教室も、普段の授業とは異なる大きな講義室で行われるため、初めて入る教室でテストを受けました。テスト前に構内で迷子になり、焦ることも何回かありました。そして、テストを受ける席も指定されています。このテストの席も、事前に調べておかなければなりません。びっくりしたのは、同じ教室で複数の科目のテストが同時に行われていたことです。

次に、テスト方式についてです。私の受けたテストは、1時間半から2時間で、一つの題について論じるという形式のものでした。専用のテスト用紙が配られ、その用紙に、ひたすら論文を書いていきます。お題は、テスト用紙が配られて初めてわかるため、授業内容を全体的に復習しなければなりません。留学生は、辞書の持ち込みが認められている科目もあったため、辞書を駆使してテストに挑みました。

記述形式のテストは、私にとってかなり難しく感じました。フランスの学生は、論文を書くことに慣れているため、テスト用紙何枚にも渡って記述していました。私は、フランス語の長文や論文を書くのを今回のテストで初めて経験しました。そのため、なかなか筆が進まず、非常に苦労しました。テストを何回か受けていくうちに形式にも慣れて、自分の考えを書けるようになりましたが、まだまだフランスの学生のレベルには到達しません。筆記は全てボールペンなどの消せないペンで書くことが必須です。日本では、鉛筆やシャーペン以外はテストで使ったことがないので、テストでボールペンを使うことに緊張しました。もちろん、修正液や修正テープを使うことができます。途中でテープがなくなるというハプニングもありました。

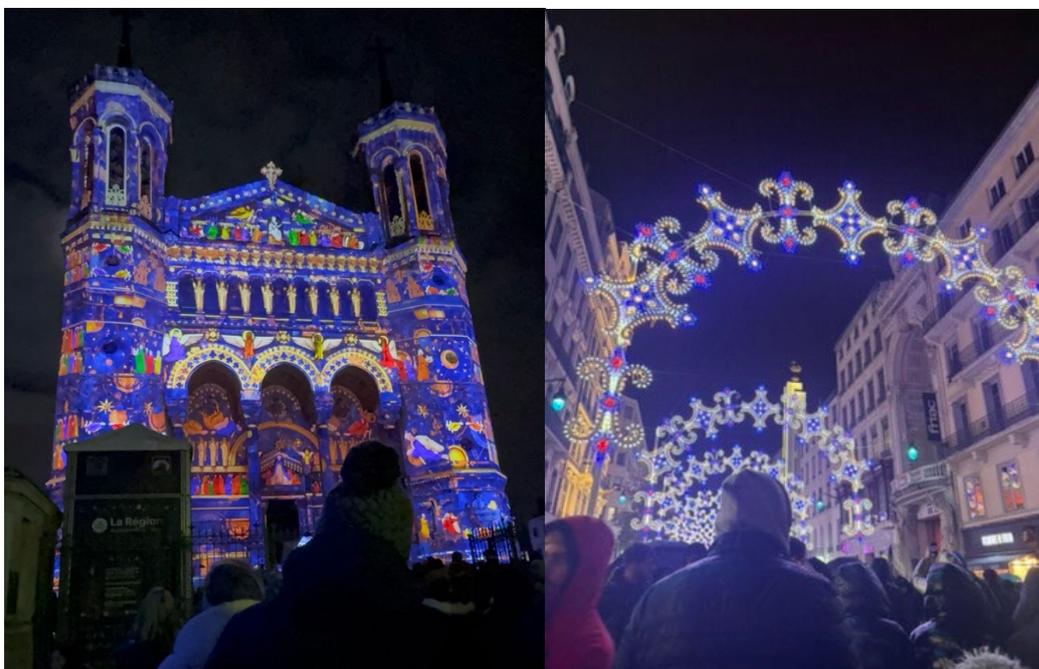
○休みの日や授業以外の出来事

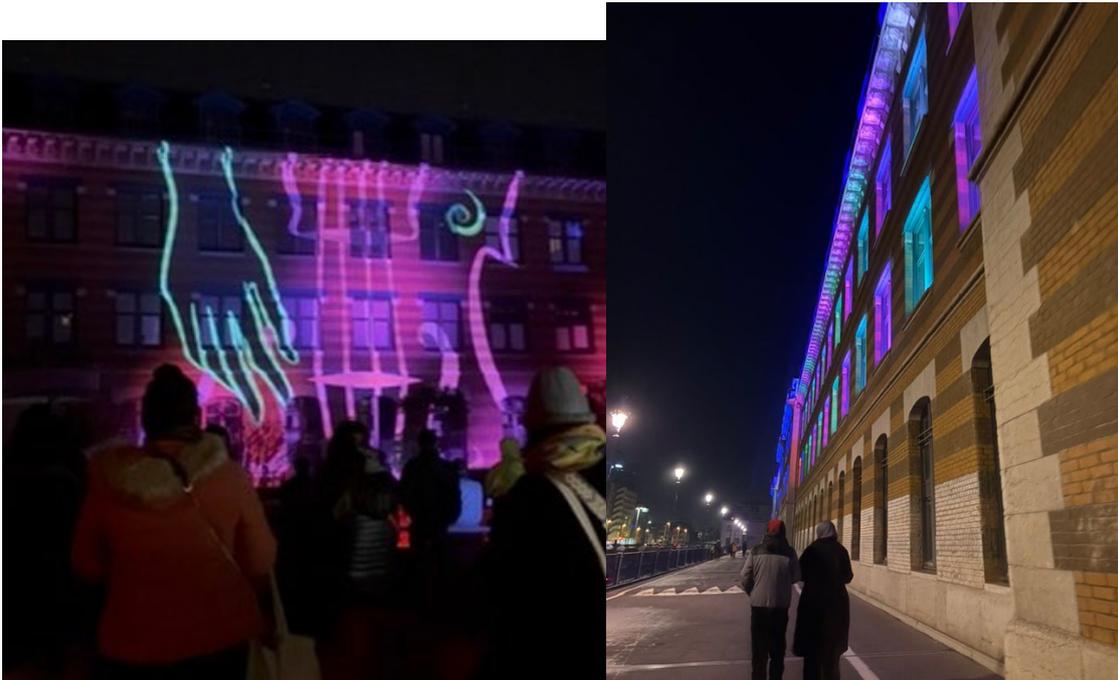
★ Fête des Lumières

私の留学しているリヨンでは、毎年12月8日ごろに「Fête des Lumières」という光の祭典が行われます。この祭典は、1852年9月8日にリヨンでマリア像の設置のお祝いが予定されていましたが、悪天候のため12月8日に延期されたことが起源とされています。無事この式を行えることを祝って、リヨン市民が窓辺にろうそくを灯したそうです。この風習が、今の光の祭典になっています。

このお祭りは4日間開催されており、私はそのうちの三日間参加しました。期間中は、フランス国内だけでなく、いろんな国から人が集まるらしく、リヨンの街は非常に賑わっていました。プロジェクションマッピングは、何箇所かで行われており、移動手段が歩きだったためかなり歩きました。歩いて移動している途中には、イルミネーションがあったり、観覧車があったり、クレープやホットワインの屋台がありました。

光の祭典は、その名の通り光がメインのお祭りで、一番の見どころは、リヨン市内の歴史的建造物でのプロジェクションマッピングです。普段の石造りの建物が、プロジェクションマッピングの光でカラフルになっており、とても見応えがありました。一つの作品に色々と工夫が凝らされており、フランスの歴史や芸術とリヨンの文化を織り交ぜた作品が上映されていました。歴史あるものと現代的なものが融合している様子を見て、不思議な気持ちになりました。





リヨン第3大学も会場になっていて、短編アニメが投影されていました。大学の建物もカラフルにライトアップされていました。

🎄 クリスマスマーケット

フランスをはじめとするヨーロッパでは、11月下旬からクリスマスごろまで、クリスマスマーケットが開催されています。私は、リヨンのクリスマスマーケットに行ってきました。

会場では、木の小屋のような屋台がたくさん並んでいて、それぞれの屋台で、vin chaud（ホットワイン）や chocolat chaud（ホットチョコレート）、レーブクーヘン（ドイツのクリスマスのクッキー）やチュロス、焼き栗が売られていました。フランスだからか、チーズを使った料理を多く見かけ、チーズの塊を売っている屋台もありました。食べ物のほかに、ハンドメイドのアクセサリやキャンドルが売られていて、会場を歩くだけでもクリスマスの雰囲気が楽しめました。

この時期のリヨンは松江と同じくらい寒いので、温かい飲み物がより美味しく感じました。飲み物は、クリスマスの柄が描かれたマグカップに入れて提供されます。飲み終わったカップを屋台に返却すると数ユーロ返ってくる、というシステムがありました。

フランスの12月はクリスマスがメインで、年末年始は日本よりも落ち着いた雰囲気があります。クリスマスを過ぎても、ツリーが飾ってあるのを見かけます。クリスマスは休みのお店が多く、家で家族と一緒に過ごすのが一般的なようです。大学も、クリスマスから年始までバカンスです。私のルームメイトたちも、クリスマス前から実家に帰省しています。家族と離れて暮らしている留学生は、旅行をしている人が多かったです。



クリスマスマーケットではアリゴを食べました。なめらかなポテトと伸びるチーズがとてもおいしかったです。トリュフも入っていて、いい香りがしました。